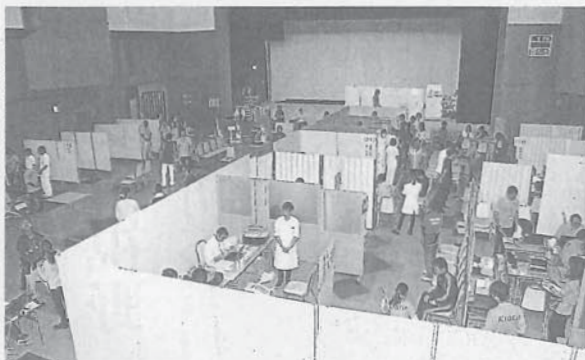


本県医療費 196億円抑制

弘大COI 県内全域実施効果 東大試算

1017年から 脳卒中・心疾患 1万7800人減

弘前大が岩木地区で行っている健康増進プロジェクト。「弘大COI」となっており、全国の企業が参加し、より積極的に健康増進するようになった。2018年5月



五十嵐 中氏



正路 章子氏

岩木健康増進プロジェクトをベースにした健康寿命延伸研究「弘前大COI」を県内全域で行った場合の医療費抑制効果を、東京大学客員准教授の五十嵐中氏らの研究グループが算出した。2017年から10年間、脳卒中、冠動脈疾患(心臓疾患)の患者を約1万7800人減らせる」と推計し、その医療費抑制効果は約196億円と試算した。五十嵐氏は「もともと岩木健診によって健康意識が高まっていたことに加え、弘大COIによる積極的な取り組みが始まり、疾患発症率が下がっている。家族の介護離職を抑えられるなど、ソーシャルキャピタル(社会資源)の損失の回避にもなっている」と語る。

県内の脳卒中・冠動脈疾患の予想発症者数と予想医療費 (2017年から10年間)

	予想発症者数		予想医療費	
	脳卒中	冠動脈疾患	脳卒中	冠動脈疾患
COIなし	15,912人	16,708人	264億3600万円	145億2800万円
COIあり	9,583人	5,238人	164億5200万円	48億7200万円
差し引き	6,329人	11,470人	99億8400万円	96億5600万円
差し引き合計	計17,799人減		計196億4000万円減	

※五十嵐・東京大客員准教授の資料を基に作成

薬剤経済学の国内第一人者である五十嵐氏と、東京大学大学院薬学系研究科の正路章子氏(博士課程大学

岩木健診は05年度から弘前市岩木地区でスタート。13年度から国の補助事業「弘大COI」の対象となり、全国の企業、研究者が参画して体力測定や健康指導などを積極的に進めている。

院生は、弘大COIが始まる前の10年から12年の傾向と、開始直前の12年から16年の傾向を分析。住民の血圧、血糖値、体重、身長などの健康状態の数値が

ら、参加者全体の脳卒中や心筋梗塞や狭心症などの冠動脈疾患を発症する確率を求めた。その結果、COI実施後に両疾患ともに発症確率の低下を確認した。県民全体が岩木住民と同じような生活習慣にあると仮定して、COI導入による発症減少数を試算したところ、県全体で17年からの10年間に、脳卒中患者約3000人、冠動脈疾患約1万1500人の計1万4500

【菊谷賢】「関連記事30面」

ら、参加者全体の脳卒中や心筋梗塞や狭心症などの冠動脈疾患を発症する確率を求めた。その結果、COI実施後に両疾患ともに発症確率の低下を確認した。県民全体が岩木住民と同じような生活習慣にあると仮定して、COI導入による発症減少数を試算したところ、県全体で17年からの10年間に、脳卒中患者約3000人、冠動脈疾患約1万1500人の計1万4500

ら、参加者全体の脳卒中や心筋梗塞や狭心症などの冠動脈疾患を発症する確率を求めた。その結果、COI実施後に両疾患ともに発症確率の低下を確認した。県民全体が岩木住民と同じような生活習慣にあると仮定して、COI導入による発症減少数を試算したところ、県全体で17年からの10年間に、脳卒中患者約3000人、冠動脈疾患約1万1500人の計1万4500

ら、参加者全体の脳卒中や心筋梗塞や狭心症などの冠動脈疾患を発症する確率を求めた。その結果、COI実施後に両疾患ともに発症確率の低下を確認した。県民全体が岩木住民と同じような生活習慣にあると仮定して、COI導入による発症減少数を試算したところ、県全体で17年からの10年間に、脳卒中患者約3000人、冠動脈疾患約1万1500人の計1万4500

ら、参加者全体の脳卒中や心筋梗塞や狭心症などの冠動脈疾患を発症する確率を求めた。その結果、COI実施後に両疾患ともに発症確率の低下を確認した。県民全体が岩木住民と同じような生活習慣にあると仮定して、COI導入による発症減少数を試算したところ、県全体で17年からの10年間に、脳卒中患者約3000人、冠動脈疾患約1万1500人の計1万4500

ら、参加者全体の脳卒中や心筋梗塞や狭心症などの冠動脈疾患を発症する確率を求めた。その結果、COI実施後に両疾患ともに発症確率の低下を確認した。県民全体が岩木住民と同じような生活習慣にあると仮定して、COI導入による発症減少数を試算したところ、県全体で17年からの10年間に、脳卒中患者約3000人、冠動脈疾患約1万1500人の計1万4500

ら、参加者全体の脳卒中や心筋梗塞や狭心症などの冠動脈疾患を発症する確率を求めた。その結果、COI実施後に両疾患ともに発症確率の低下を確認した。県民全体が岩木住民と同じような生活習慣にあると仮定して、COI導入による発症減少数を試算したところ、県全体で17年からの10年間に、脳卒中患者約3000人、冠動脈疾患約1万1500人の計1万4500

ら、参加者全体の脳卒中や心筋梗塞や狭心症などの冠動脈疾患を発症する確率を求めた。その結果、COI実施後に両疾患ともに発症確率の低下を確認した。県民全体が岩木住民と同じような生活習慣にあると仮定して、COI導入による発症減少数を試算したところ、県全体で17年からの10年間に、脳卒中患者約3000人、冠動脈疾患約1万1500人の計1万4500

ら、参加者全体の脳卒中や心筋梗塞や狭心症などの冠動脈疾患を発症する確率を求めた。その結果、COI実施後に両疾患ともに発症確率の低下を確認した。県民全体が岩木住民と同じような生活習慣にあると仮定して、COI導入による発症減少数を試算したところ、県全体で17年からの10年間に、脳卒中患者約3000人、冠動脈疾患約1万1500人の計1万4500